

交差する水脈

CONCEPT

変わっていく「いつも」、変わらない「いつか」

変わっていく「いつも」

「未完成」、「可変的」、「流動的」の日常を過ごすことを意味する。まちは、すぐに完成するものではなく、時間をかけて更新しながら築かれていく。

変わらない「いつか」

過去の「いつか」と未来の「いつか」を内包している。まちの課題や災害の経験などは揺るぎない事実であり、未来の「いつか」に向けてビジョンを確立する。

ミュージアムロードで多様な営みが溶け合う風景をつくり、芸術・文化薫るまちを目指す。

周辺建物は Google Earth の画像を加工

1. ミュージアムロードの状況分析

特徴

- ①水のまち
→六甲山地から大阪湾へ続く傾斜地、酒造文化、湧き水
- ②文化施設やアートの集積
→兵庫県立美術館、美かえるなど
- ③再整備
→JR 灘駅の駅前再整備、大学の新たなキャンパスや動物園のリニューアル
- ④災害の歴史
→阪神淡路大震災、台風、豪雨など

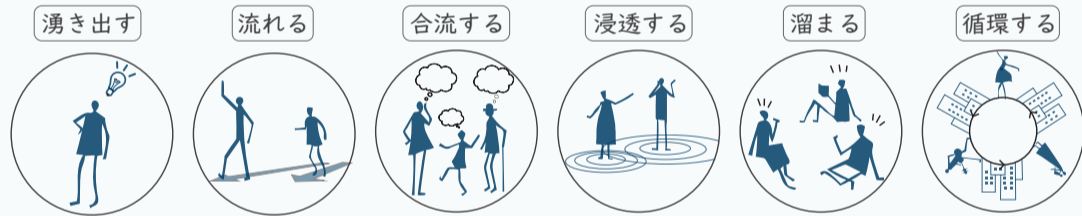
課題

- ①回遊する来訪者を増やす
→関係人口の増加によるにぎわい創出
- ②ミュージアムロードの連続性の創出
→国道2号やJR 灘駅がロードの連続性を断絶
- ③芸術・文化への参画
→「観る」から「参加する」、「教える」へ
- ④都市空間のアップデート
→ニーズの変化への対応

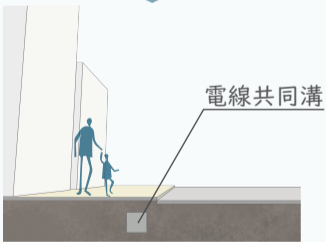
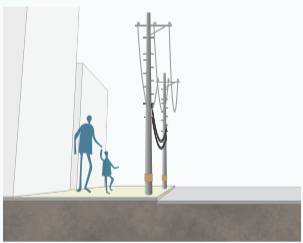
2. 整備手法

a 水のメタファー

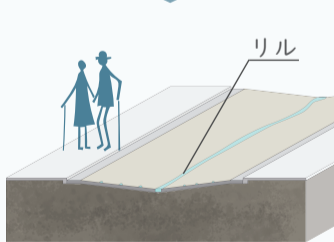
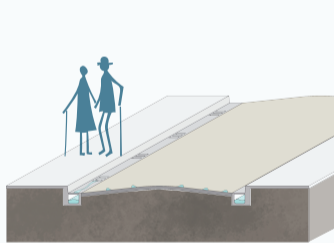
神戸市は、六甲山地から大阪湾へ続く傾斜地系や湧き水など「水のまち」としての側面を持つ。水は流動的であり、多様な様相をなす。水の多様な振る舞いをメタファーとして読み替え、途切れないストーリーを描く。



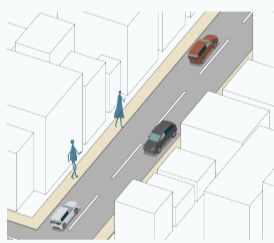
b 無電柱化



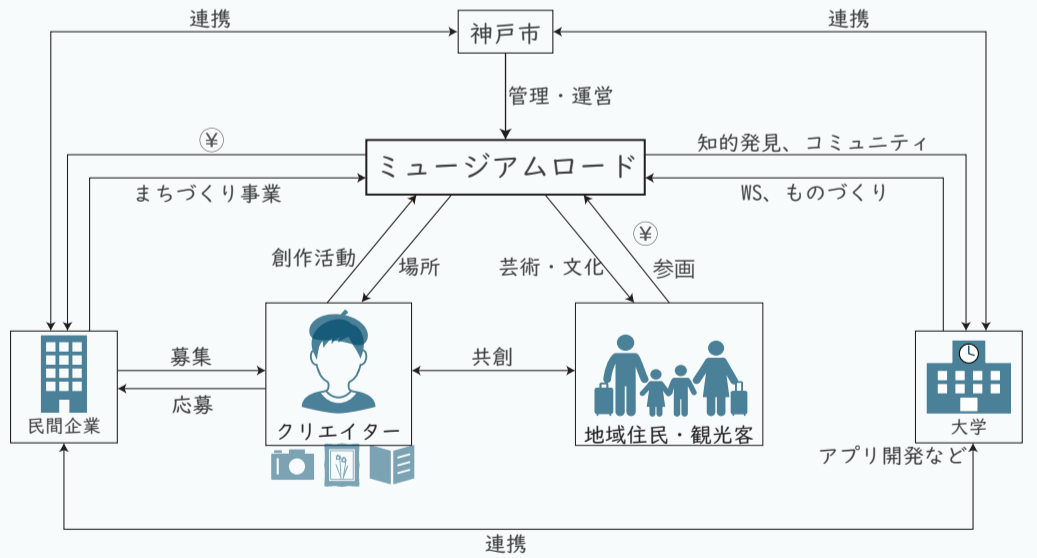
c リルの再現



d フルモールド化



e 事業計画



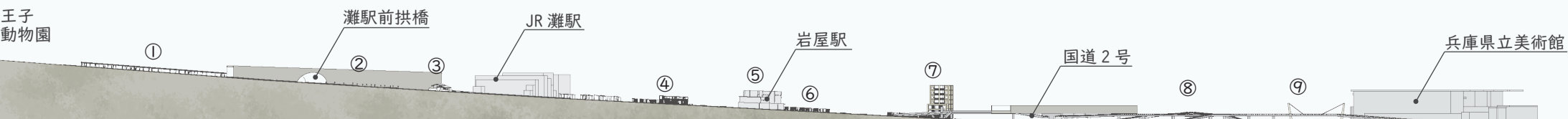
f 上流・中流・下流のゾーン分け

上流
気付きの土壌
王子動物園ー JR 灘駅。創造の出発点として**気付きのタネ**を得る場所とする。営まれるコミュニティ活動や水の滴る音、オブジェクトなどが来訪者に静かな発見をもたらし、感性を開く。

中流
価値の合流点
JR 灘駅ー BB プラザ美術館。**多様なクリエイターを受け入れ**、住民や観光客が主体的に関わる開かれた場である。多様な価値観が邂逅し、「観る・観せる」関係から「共に創る」関係となる。立場や世代を超え、新たな文化が生まれる共創のエリア。

下流
美の汽水域
BB プラザ美術館ー兵庫県立美術館。完成品や活動が展示され、多様な立場・視点から自由に読み解かれることで、新たな解釈や価値が生まれる。その中で問いや可能性を見出し、その**気付きが再び上流に還る**。

- ①Insight Corridor
- ②Little Free Library
- ③選択除草
- ④臨港線クリエイティブハブ
- ⑤IWAYA クリエイトハブ
- ⑥可変フレーム
- ⑦クリエイターインレジデンス
- ⑧Cross Sky Terrace
- ⑨Median Art Gallery



神戸文学館

王子動物園

横尾忠則現代美術館

兵庫県立美術館王子分館
原田の森ギャラリー



灘駅前拱橋

阪神淡路大震災の歴史を踏まえ、変わらない「いつか」の象徴として存在する灘駅拱橋。日々更新され、変わっていく「いつも」の営みを受け止めるための、変わらない基盤となる。



選択除草による植生管理

灘駅北側広場では、在来種を保護し、景観を乱す外来種のみを除去する「選択除草」が行われる。自然環境整備に加え、その活動が地域コミュニティの形成に繋がる。



IWAYA クリエイトハブ

音楽やデジタルクリエイティブが行われるクリエイティブハブ。岩屋駅を増築し、2、3階に計画する。駅の内外問わず、クリエイターと住民・観光客の交流が生まれる。

臨港線跡地

阪神岩屋駅

JR 灘駅



Insight Corridor

王子動物園から続く、屋根付きの回廊。天候に左右されるこの道は、関西学院大学の学生や地域の人々の日常を優しく繋ぐ。単なる通過動線ではなく、風景を感じ、内面と向き合う静かな歩みが豊かな「気づき」をもたらす装置となる。



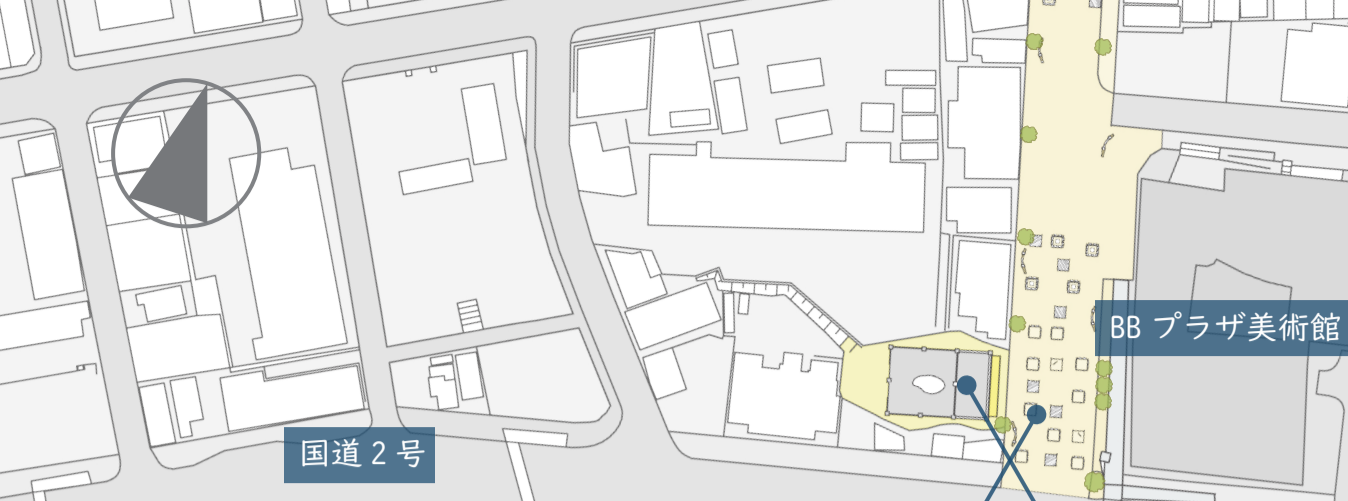
Little Free Library

まちの中に突然現れる小さな本棚。そこに生じる驚きや好奇心が道行く人の足を止める。家に眠る本を、売却や資源回収とは違う形で手渡す、新しく楽しい「本の循環」のカタチ。関学の教師陣や「まちライブラリ」とも連携し、アカデミックな知見と共に、物語が地域を軽やかに巡り始める。



臨港線クリエイティブハブ

シェアキッチン、園芸ができるクリエイティブハブ。臨港線跡地に位置し、コンテナを利用することで、かつての貨物列車の面影を感じさせる。



クリエイターインレジデンス
 専門や立場が異なるクリエイターが滞在することができる。1階は来訪者とクリエイターが出会う開いた空間。2、3階の木工やペイントなどをするアトリエとなっており、街路に張り出すようにすることで外から作業風景を垣間見ることができる。



可変フレーム（イベント時）
 2600mm×2600mmのフレームを用い、ベンチ、テーブル、屋台、作品展示コーナーなど、様々な利用方法がある。イベント時は歩行者天国となる。



Cross Sky Terrace
 アートを鑑賞できる空中歩廊。中央分離帯に展示される作品や、上流・中流エリアを眺めることができる。アイレベルが変化することで平面的な移動では得られない新たな作品の表情を発見できる。



Median Art Gallery
 中央分離帯を活用したギャラリースペース。ミュージアムロードで生まれた作品群がここに集積・展示される。下流エリアに位置するこの場所で、ミュージアムロードを「ミカエル」ことができる。